

コーヒー豆の生産技術指導 による所得向上支援事業

特定非営利活動法人 NGO クワトロ

2025/8



はじめに

昨年度は、貴財団の助成金にご採択いただき、誠にありがとうございました。
本事業の実施を通じて、以下のような成果を得ることができました。



村に住む人数	約200人
コーヒー農家の割合	約160人(約80%)
主な収入源	米、芋、コーヒー豆

約1,395円
単価向上

事業実施前: 約 105円/kg

事業実施後: 約 1,500円/kg

合計 約27,900円

※大卒／英語話者の月給と同等水準

NGOクワトロが目指すもの

ダイレクトトレードを通して
経済的に不利な立場にあるコーヒー農家が
安定した生活を送ることができる



団体概要

QUATRO

開発途上国における特定地域の人々に対し、
教育面、経済面の支援事業を行い、一人ひとりのありたい姿を実現する

■団体概要

- 特定非営利活動法人 NGOクワトロ

所在地 〒331-0047
埼玉県さいたま市西区指扇1328-50

創立日 2012年 6月 8日

代表者 理事長 米坂 浩昭
理事 座間 慶彦
中島 謙太
藤原 朋也
守野 雄揮

HP

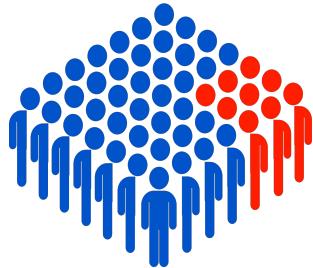
<https://ngoquattro.studio.site/#top>

■私たちの支援地



ラオスが抱えるコーヒー農家の課題

ラオス



- 人口の**70%**が農業に従事
- 大半が小規模農家で自給自足

コーヒー農家



- 高品質な豆の取引先がない
- 品質向上の知識/手段がない

取り組むべき
課題

- 適切な価格で取引ができる販路の確保
- コーヒー豆の品質向上

ラオス農家の事例



ワッキヤさん

5人家族を一人で養う

普段はコーヒー栽培で生計を立てているが、
農作物をバイヤーに安く買い叩かれてしまう
ことに不満を抱いている



オ一イさん

7人家族を共働きで養う

もともとコーヒー栽培で生計を立てていたが、
子ども達の高校入学を機に
キヤッサバ農家への切り替えを考えているが、
キヤッサバ栽培は5年後には畑が死んでしまう

ラオス農家の抱える課題



農家単体では変えることができない
“構造的な課題”に苦しんでいる



現状を変えるための “知識”も”手法”も持たない農家は、
「なす術なく、現状を受け入れる」
「知識なく変化を起こし、未来の農業環境を悪化させる」
選択をしてしまう

5人家族を一人で養う

普段はコーヒー栽培で生計を立てていたが、
農作物をバイヤーに安く貰い叩かれててしまう
ことに不満を抱いている

7人家族を共働きで養う

もともとコーヒー栽培で生計を立てていたが、
子供の高校入学を機に
キヤッサバ農家への切り替えを考えているが、
キヤッサバ栽培は5年後には畑が死んでしまう

クワトロの支援モデル

コーヒーの生産～消費までの製造過程を包括的に支援を実施



※赤枠以外もクワトロの支援の形の優位性ではあるが本助成金では赤枠を対象とする

クワトロの支援の特徴

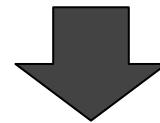
今回のコーヒープロジェクトは
コーヒー農家の生活を一変させるものではなく
生産/販売過程に「+1」の支援を提供する取り組みです

コーヒー農家が努力することで豊かになる、
当たり前の世界の実現に向けた支援の第一歩にしたい

クワトロが目指す支援の形

従来のコーヒー生産工程

農家生産 → 農家収穫 → 農協評価 → 農協仕入



農家生産 → 農家収穫 → **クワトロ評価** → **クワトロ仕入** → 農協評価 → 農協仕入

+技術指導

← クワトロが提供する「+1」の支援 →

※点線もクワトロの支援の形の優位性ではあるが本助成金では対象外

期待される効果

コーヒー農家の人々が **品質向上の技術を習得** し、
生産された高品質な豆が **適切な価格で取引** され、
所得向上をもたらし 生活水準を向上 させる

昨年度の取組内容(1年目)

昨年度の活動を通して、「コーヒー農家の方との対話」により、
ラオスの実態に即した課題を発見



技術指導



ヒアリング



モニタリング

1. 技術指導方法の課題

2. 評価方法の課題

“小規模農家向け”的”個別化された課題解決の仕組み”が必要

技術指導方法の課題

コーヒー豆の品質を向上させられない課題 を解決する必要がある

課題
1

一度の指導では定着しない

わからないことを
“いつでも”聞ける体制が必要

課題
2

調べたいことが、調べられない

“調べたい内容を定義”する
サポートが必要

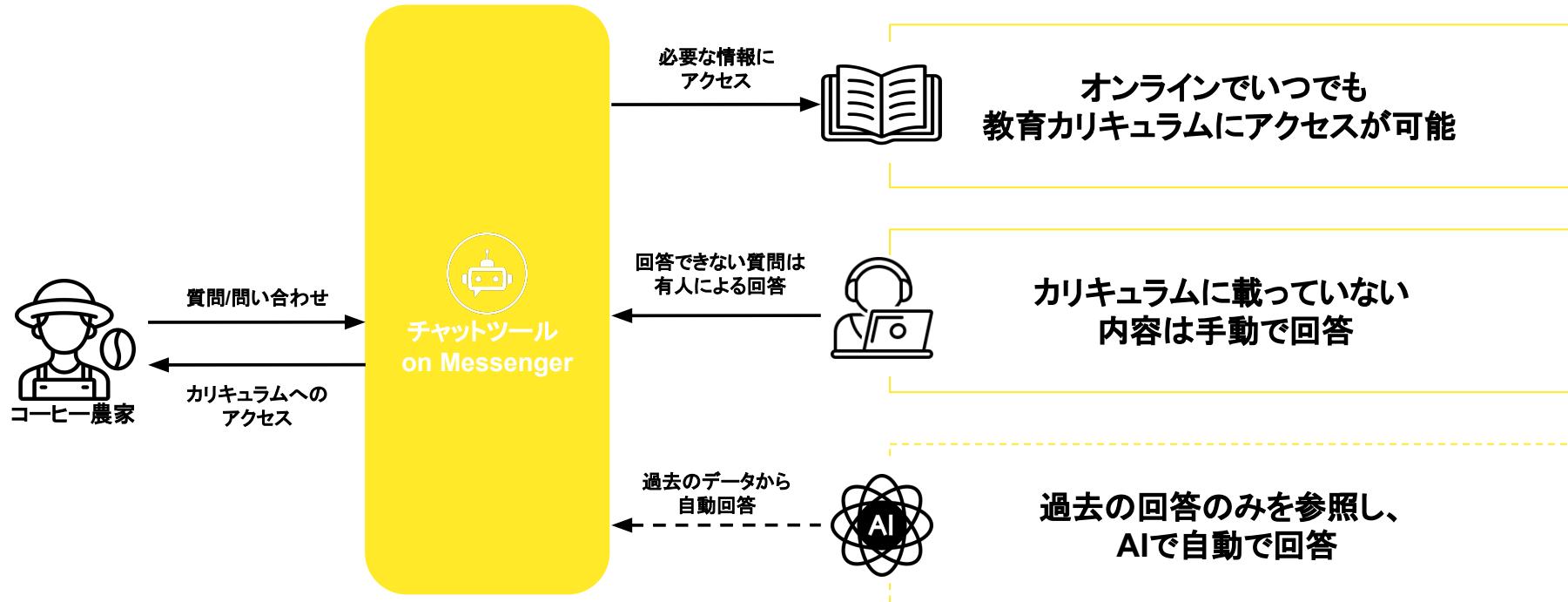
課題
3

正しい情報を知る術がない

“専門的で正しい知識”に
アクセスできる

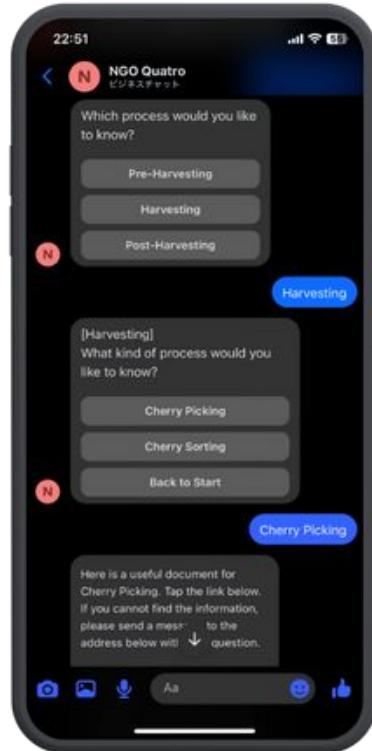
クワトロの新たな技術指導の仕組み

チャットツールを活用することで、”場所／時間を問わない”、
”オンラインでの適切な技術指導”の仕組みを構築する



チャットツールの利用イメージ

“農家一人ひとり”の”その時々の課題に合わせて支援”を行うことが可能



課題例

どんな収穫豆をピックアップすれば
良いかわからない。

利用イメージ

ガイドに従い「収穫豆の選定方法」を
選択すれば、適切な情報にアクセス可能。
教育コンテンツでわからない内容は、
有人対応フォームにて質問可能。

評価方法の課題

努力しても適切な評価を受けられない課題 を解決する必要がある

課題
1

豆の評価者自体が少なく、
現地ブローカーに安く買われる



オンラインと郵送を活用した
“簡易な評価プロセス”が必要

課題
2

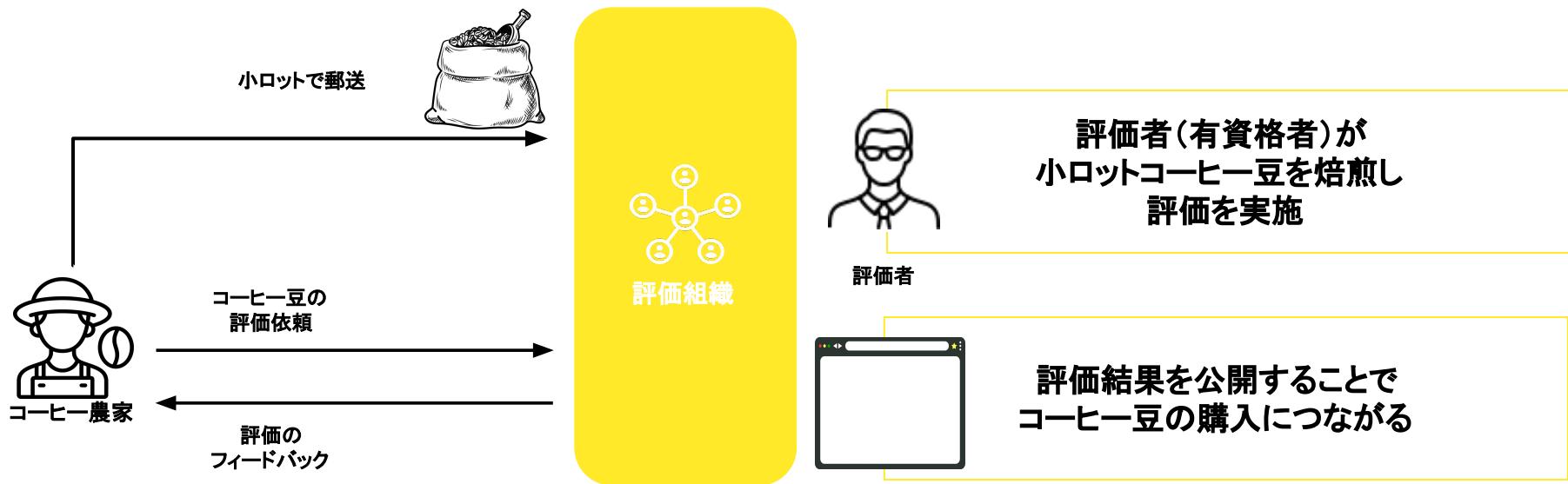
小ロットの豆で評価を受ける
仕組みがない



“小規模農家でも適正に豆の評価”を
受けられる体制が必要

クワトロの新たな評価方法の仕組み

チャットツールを通じた“小規模農家向け”的
“小ロットの豆”で適切な評価を受けられる仕組みを構築する



本支援の意義と価値

ラオスでのスマホ普及率は86.7%

「低いコスト」でも「大きなインパクト」が期待できる

“今の時代”だからこそできる解決策

本取り組みのポイント

“波及効果が限定的”であった従来の支援活動からの転換を目指す

Before

現地に”何度も”訪問が必要な
従来の支援活動では
支援の時間/場所/期間より、

”波及効果が限定的”であり、
“個別最適化”は難しい



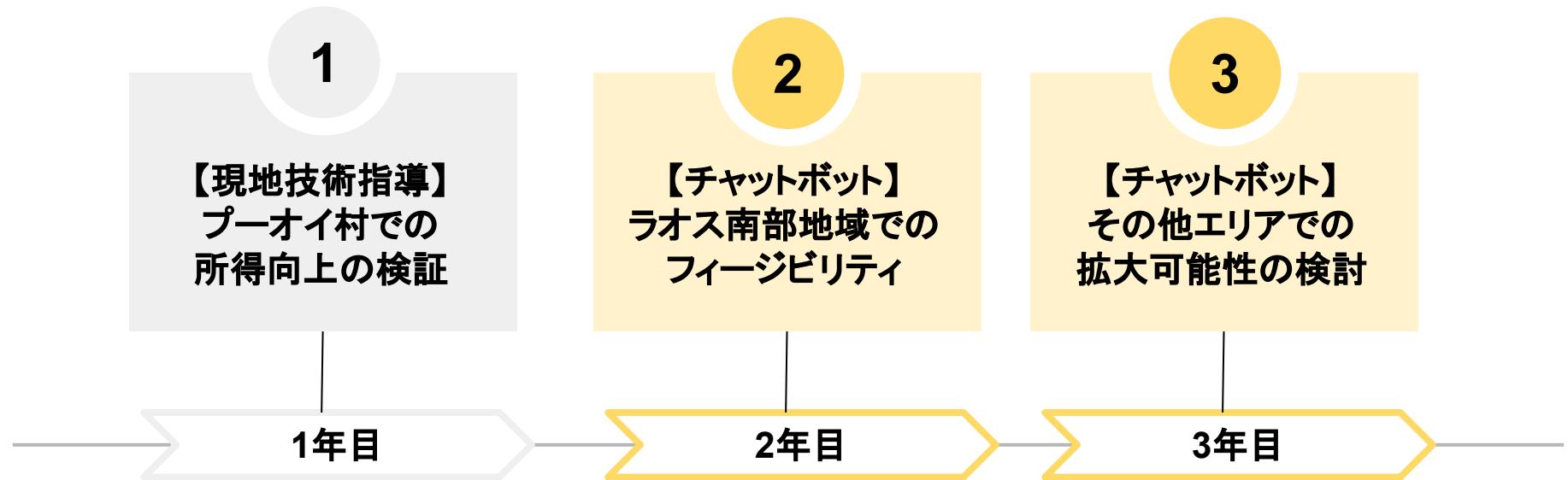
After

”訪問時だけでなく必要な時に”
支援を受けられ、
時間/場所/期間を選ばず

”波及を最大化”し、
“個人に寄り添った支援”する

今後の展望について

昨年度ご支援をいただいた取り組みにて発見した課題から、
“現地の実態”に則した”効果的かつ波及効果の高い支援”に繋げる



今回、NGOクワトロが行う支援は
コーヒー農家の生活に寄り添い、
一步ずつ努力しながら所得を向上させることで
コーヒー農家が 努力すれば報われる社会を実現する
そんな可能性を秘めています

本日お話した支援方針は、皆様のご支援があり、
昨年15人のコーヒー農家の方々との対話 から生まれた、
小さな希望の光 です。

この希望は、まだ小さな光かもしれませんが、

ラオスのコーヒー農家とその家族の生活を
「より良い未来へと導く、一步になる」

と信じています。



ご清聴ありがとうございました。



南部ラオスの一つの村の事例

- 南部ラオスの村(プーオイ村)の事例について

村に住む人数



約200人

コーヒー農家の割合



約160人
全体の約8割

主な収入源



米、芋、コーヒー豆
(150~200円で取引)

今後の展望

LuLaLao Coffee

×

NGOクワトロ

×

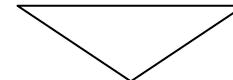
Super Bloom

販売に直結する 技術支援

- 指導範囲の拡大
- 深度の下げる指導

確かな品質理解に基づく 販路拡大

- 日本国内での販路拡大
- 国内2店舗での販売



支援農家からスペシャルティコーヒーを生み出すことを目指す